

● 令和6年度第1回みやぎ観光振興会議石巻圏域会議

【日時】令和6年7月29日（月）13時30分から15時まで

【場所】石巻合同庁舎201・202会議室

（1）本県の観光の現状・課題に対する認識

- 観光客入込数や宿泊観光客数については、コロナ禍の状況や一時的な要因、特別なイベント開催など、様々な事情が関係しているため、検証が必要である。
- 観光客入込数や宿泊観光客数は増加傾向にあるが、観光関連産業への経済効果は感じられない。
- 第5期プランの成果をきちんと検証し、評価する必要がある。

<石巻圏域について>

- コロナ禍における石巻圏域の宿泊施設は、工事関係者などの宿泊により、他圏域と比べて落ち込みが緩やかだったところに、5類移行後の一般観光客が加わり、伸び率が他圏域よりも高い結果となったのではないかと考えられる。
- 石巻圏域の宿泊観光客数が増加した要因は、工事関係者の宿泊ほか、スポーツ関係の全国大会や大規模イベント開催等の一時的なものが影響していると考えられ、詳しく分析する必要がある。また、一時的な要因がなくなった後の宿泊客数の維持や、更なる取り込みが課題である。
- 観光客入込数や宿泊観光客数は伸びているが、観光関連産業への経済効果は感じられない。タクシー業界は、コロナ前の8～9割ほどしか売り上げが戻っていない状況。

（2）本県の観光が目指すべき姿や観光戦略プロジェクト

- AI等の最新技術の積極的な利活用によるDXの推進を図るべき。そのための実業における活用について学べる機会やイメージーションを持てる機会が必要である。
- インバウンドは、ターゲティングを明確にして、プロモーションの物量をもっと増やす必要がある。
- オルレ等のネイチャー系の旅行者の消費単価を上げる取組が必要である。
- 「主な施策イメージ」には「新規」が多く、期待が持てる。

<石巻圏域について>

- 既存コンテンツの磨き上げや、新たなコンテンツの創出などによるリピーター獲得や、周遊コースの造成などによる滞在時間を伸ばす取組が重要である。
- まんがやアート、被災地としての復興アジェンダなど、ストーリー性やテーマ性を重視した「石巻ならではの観光コンテンツづくり」に向け、磨き上げが必要である。
- 新しい道の駅の開業やサン・ファン館のリニューアルオープンは今年の大きな動きだが、既存施設を含め、各施設を観光振興にどのように生かしていくのかの議論をしっかりとすべきである。

（3）数値目標の設定方針

- 観光客入込数や宿泊観光客数等だけではなく、プランに基づく事業の成果を直接的に評価できるような数値目標の設定が必要なのではないか。
- 圏域毎の宿泊観光客の目標設定にあたっては、宿泊施設数や定員数等から、「伸びしろ」を見極める必要がある。